

2014年度 入試結果速報

北海道医療大学

一般前期入試の志願者数は増加。

本年度は1月30日・31日の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国12会場で一般前期入試を実施しました。総志願者は、昨年度より11名増え、3,246名でした。

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えます。本年度は、リハビリテーション科学部の受験も可能になり、志願者数は、昨年度より772名増え、2,316名でした。

編入学2期に18名の志願。

編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で18名の志願がありました。

2014年度 編入学試験(2期)結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人	3(3)	1(0)	1(1)	0(0)	—(—)
	一般		5(4)	5(4)	3(3)	1.7(1.3)
歯学部 ●歯学科	2年次	若干名	6(2)	5(1)	5(1)	1.0(1.0)
	3年次	(若干名)	0(—)	—(—)	—(—)	—(—)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	3(3)	1(3)	1(3)	1(3)	1.0(1.0)
	一般		0(3)	—(3)	—(3)	—(1.0)
●臨床福祉学科	社会人		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	3(3)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
指定校			0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
			0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
心理学部 ●臨床心理学科	社会人	若干名	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	(若干名)	0(1)	—(1)	—(1)	—(1.0)
●言語聴覚療法学科	社会人	3(3)	1(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)
	一般		1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人	若干名	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	(若干名)	3(—)	3(—)	1(—)	3.0(—)
●作業療法学科	社会人	3(3)	0(—)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般		0(—)	—(—)	—(—)	—(—)
合計		—(—)	18(14)	17(13)	12(12)	1.4(1.1)

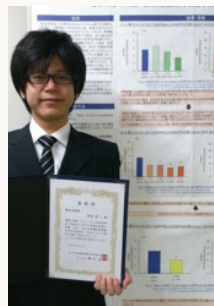
2014年度 一般・センター前期入試結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	
薬学部 ●薬学科	一般	1/30	242(246)	235(244)	109(121)	3.8(3.4)	
	前期入試	1/31	65(65)	189(174)	179(164)		
	センター	A	15(15)	267(281)	267(281)	64(56)	4.2(5.0)
	前期入試	B	10(10)	130(101)	130(101)	40(35)	3.3(2.9)
歯学部 ●歯学科	一般	1/30	60(47)	57(43)	65(44)	1.6(1.5)	
	前期入試	1/31	25(25)	51(26)	46(23)		
	センター	A	5(5)	166(130)	166(130)	150(115)	1.1(1.1)
	前期入試	B	3(3)	62(30)	62(30)	58(28)	1.1(1.1)
看護福祉学部 ●看護学科	一般	1/30	378(400)	364(388)	101(95)	6.7(8.0)	
	前期入試	1/31	40(40)	331(380)	316(371)		
	センター	A	8(8)	226(308)	226(308)	53(42)	4.3(7.3)
	前期入試	B	6(6)	95(118)	95(118)	30(31)	3.2(3.8)
●臨床福祉学科	一般	1/30	163(162)	160(159)	179(178)	1.7(1.8)	
	前期入試	1/31	23(23)	147(159)	142(155)		
	センター	A	6(6)	119(103)	119(103)	102(75)	1.2(1.4)
	前期入試	B	4(4)	91(71)	91(71)	90(67)	1.0(1.1)
心理学部 ●臨床心理学科	一般	1/30	212(182)	209(179)	116(115)	3.3(3.0)	
	前期入試	1/31	24(27)	183(169)	175(165)		
	センター	A	8(8)	150(134)	150(134)	58(58)	2.6(2.3)
	前期入試	B	6(7)	121(96)	121(96)	50(53)	2.4(1.8)
●言語聴覚療法学科	一般	1/30	177(168)	173(166)	82(81)	4.0(4.0)	
	前期入試	1/31	14(14)	162(159)	157(154)		
	センター	A	8(8)	131(107)	131(107)	60(47)	1.9(2.3)
	前期入試	B	6(6)	88(65)	88(65)	46(38)	2.2(1.8)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	一般	1/30	254(257)	253(256)	62(89)	7.2(5.1)	
	前期入試	1/31	30(43)	192(207)	191(202)		
	センター	A	7(—)	190(—)	190(—)	30(—)	6.3(—)
	前期入試	B	6(—)	150(—)	150(—)	24(—)	6.3(—)
●作業療法学科	一般	1/30	275(268)	270(266)	81(106)	6.1(4.7)	
	前期入試	1/31	14(19)	230(231)	225(227)		
	センター	A	4(—)	200(—)	200(—)	51(—)	3.9(—)
	前期入試	B	3(—)	130(—)	130(—)	30(—)	4.3(—)
合計	一般	1/30	1,761(1,730)	1,721(1,701)	795(829)	4.0(3.8)	
	前期入試	1/31	235(256)	1,485(1,505)	1,431(1,461)		
	センター	A	61(50)	1,449(1,063)	1,449(1,063)	568(393)	2.6(2.7)
	前期入試	B	44(36)	867(481)	867(481)	368(252)	2.4(1.9)

「第7回 日本腎臓病薬物療法学会 学術集会・総会2013」で、薬学部薬剤学講座の市村助教を中心とする研究が優秀演題賞を受賞。

平成25年10月5日・6日に広島国際会議場で開催された「第7回 日本腎臓病薬物療法学会 学術集会・総会2013」

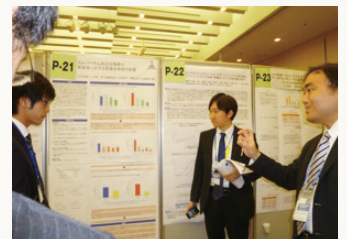


において、本学薬学部薬剤学講座(薬剤学)の市村助教を中心とする「カルバペネム系抗生物質の腎排泄に対する尿毒症物質の影響」が優秀演題賞に選ばれました。

この研究は、血液透析患者の治療薬の生体内運命に密接に影響する可能性が指摘されている、患者体内に蓄

積する様々な尿毒症物質のうちアニオン性尿毒症物質について、臨床で使用頻度の高いカルバペネム系抗生物質の腎排泄に対する影響を、ラット腎スライス法にて検討したもので、アニオン性尿毒症物質の中に、薬物の腎尿管分泌に関与するトランスポーターを強力に阻害するものが存在するとの知見を得たものです。

この知見は、アニオン性尿毒症物質が様々な薬物の腎排泄を阻害することで、治療効果や副作用の発現に密接に関与することを示唆するもので、近年、増加の一途をたどり、日本国内では現在30万人を超えている血液透析患者のみならず慢性腎臓病患者における医薬品の適正使用に向けて、臨床重要な研究成果であると評価されました。



左から薬学部薬剤学講座(薬剤学)の齊藤教授、市村助教、第6学年村部さん、小田講師